

こもれび学級

自立活動

単元名 信用貯金を貯めよう

令和6年7月16日(火) 3校時

児童 こもれび学級3組 5年生3名, 6年生2名

場所 こもれび学級3組

授業者 佐藤太紀

1. 児童の実態

本学級には、5年生の男子2名、女子1名、6年生の男子1名、女子1名の計5名が在籍している。認知等の発達にはばらつきが見られるが、何事に対しても前向きに取り組むことができるところは共通している。

一方で、「すぐ気が散ってしまう」「身の回りをきれいにしたり、整理したりするのが苦手」「次の作業に移るのが苦手」等の共通した課題も見られる。

2. 単元の目標

- 日ごろの行動が自分と人との信頼をつくることに気付き、自分自身の言動を見つめ直し、信頼を高めるためにはどうしたら良いかを考えることができる。
- 一つ一つの自分の行動が信用貯金を貯めることにつながり、集団の一員として周囲の人の気持ちを考えて行動できるようにする。

【自立活動の内容項目】

- ・「すぐ気が散ってしまう」「身の回りをきれいにしたり、整理したりするのが苦手」
⇒「環境の把握」「心理的な安定」
- ・「次の作業に移るのが苦手」「気持ちのコントロールが苦手」
⇒「心理的な安定」「コミュニケーション」

3. 研究とのかかわり

仮説1 <個に応じた課題設定>

- ・認知面での力の差があるため、共通の課題を設定する際には、文字だけではなく、写真やイラストを援用しながら、提示の仕方を工夫することによって、個に応じた課題設定を行うことができるだろう。

仮説1 <個に応じた手立ての工夫>

- ・認知面での力の差があるため、時間ごとに捉えたい概念や社会通念について、言語以外の視覚的支援(写真やイラスト)を用いることで、全員が同じ土台で考えることができるだろう。

仮説2 <自己肯定感を高める人と関わる学習活動>

- ・自己認知を促す学習活動を取り入れる。
- ・自己認知(self-awareness)と他者認知(social awareness)のずれを明確にすることで自分を過小評価しない活動を取り入れる。

仮説2 <自己肯定感を高める教師の関わり方>

- ・幅広い価値を受容する態度で関わる。
- ・当該児童が自分の役割を果たすために努力してきた足跡を「まなびのあしあと」として掲示し、自分の努力を視覚的に捉えることができるようにする。

4. 単元計画

時数	学習活動	目標
1	<p><信用貯金とは?></p> <ul style="list-style-type: none">・単元の流れを確認する。・周囲から信用されることの良さを「信用されている人」と「信用されていない人」の対比から捉える。	<ul style="list-style-type: none">・人と人との間にある見えない信用の差で周囲から言われることにも違いがあることに気付くことができる。・人の信用とは、貯金箱に貯まっていくお金のようなものであることから、信頼が上がることをすれば貯まること、信頼の下がることをすると減っていくことを考えることができる。

2	<p>〈信用を失う時〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ためていた信用貯金を失う場面を想定し、「信用」を失う時は一気になくなること捉える。 ・また信用貯金を失うことによる周囲への影響についても考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信用は日々の積み重ねで貯まること、信用を失う時は一気になくなること気が付き、日々の積み重ねが大事であることを考えることができる。 ・自分が頼まれたことを行わないと自分が困るだけでなく、周囲のみんなも困ることにつながることを考えることができる。
3 (本時)	<p>〈信用の貯金を貯めるには〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分はどのくらい信用貯金がたまっているのかについて考える。 ・信用貯金をためていくために自分にできることについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の信用・信頼を貯めるために、何から取り組みれば良いか、自分自身の行動を振り返って考えることができる。 ・約束を守ること、自分の考えだけで行動、相手の気持ちを考えて行動することなど、自分がまずは取り組みそうな行動について考え、実践しようとする事ができる。
4 5	<p>〈信用貯金を貯めよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「信用貯金」に関わるルールを決める。 ・信用貯金をためることを意識して1週間過ごし、その結果について考える。 ・どのようにすれば、もっと信用貯金がたまっていくのかについて具体的に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こもれび3組版信用貯金」のルールを考えることができる。 ・一週間の実践の結果から、信用貯金は貯まりにくく、減りやすいことに気付くことができるようにする。そして、日々努力すること、小さなことに気を遣うことが必要であることを再確認し、より信頼される自分について考えることができるようにする。

5. 個別の実態・目標・手立て・評価

6. 本時の授業

(1) 本時の目標

- ・自分の信用・信頼を貯めるために、何から取り組めば良いか、自分自身の行動を振り返って考えることができる。
- ・約束を守ること、自分の考えだけで行動、相手の気持ちを考えて行動することなど、自分がまずは取り組みそうな行動について考え、実践しようとする事ができる。

(2) 展開

	学習内容	教師の関わり	◆支援 □評価 ☆T2の動き
導入	1. 本時の流れを確認する。 2. コミュニケーションにかかわる SST を行う。 3. 前時までの学習を振り返る。 4. 本時の課題を把握する。	・ SST の説明をする。 ・ 掲示物を使い前時までの流れを確認する。 ・ 課題を提示する。	◆視覚的に単元・本時の流れを示し、児童が今何をする場面なのかを理解できるようにする。 ◆コミュニケーションに課題がある児童がいるため、短時間でできる SST を用意する。 ◆視覚的に分かりやすいように掲示する。 ◆視覚的に分かりやすいように写真やイラストを併せて提示する。
展開	信用貯金をためるために、自分にできそうなことを考えよう。		
	5. 日ごろの自分の行動について振り返り、信用貯金がどれくらいたまっているのか発表する。 6. 信用貯金をためていくために、自分ができることを具体的にあげる。 7. 「自分にできること」を全体交流する。	・「今の時点で、あなたの信用貯金はどれくらいたまっていますか」と発問する。 ・理由も含めて児童に自分の信用貯金の量を説明させる。 ・教師が見本を見せる。 ・アイデアが思いつかない児童に対しては、具体例をいくつか提示する。 ・全体交流を促す。(ファシリテーターとしての立場で参観する。)	□課題を正確に捉えているか、確認する。 <input type="checkbox"/> □自分の行動や考え方を肯定的に捉えることができているか。 <input type="checkbox"/> ◆それぞれの児童が持っている課題と対応させられるようにする。 □アイデアを思いつくことができているか。 <input type="checkbox"/> □他者の意見や考え方を受容することができるか。 <input type="checkbox"/> □友達の意見や考えを最後まで聞いてから自分の意見を言っているか <input type="checkbox"/>
終末	8. 本時の振り返りをする。	・まなびのあしあとにも注目させる。	◆まなびのあしあとを通してそれぞれのがんばりを具多的に捉えさせる。

(3) 本時の評価 (評価方法)

- ・自分の信用・信頼を貯めるために、何から取り組めば良いか、自分自身の行動を振り返って考えることができたか。(観察)
- ・約束を守ること、自分の考えだけで行動、相手の気持ちを考えて行動することなど、自分がまずは取り組みそうな行動について考え、実践しようとする事ができたか。(観察)

7. 板書計画

今日のテーマ

今日の流れ

①会話の練習

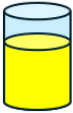




②テーマについて考える。

③わくわくタイム

信用貯金をためよう

信用貯金をためるために、自分にできそうなことを考えよう。

今、どれくらいの貯金があるかな？

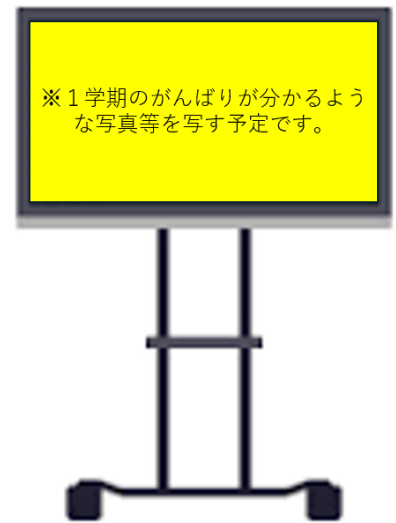






ネームカード
ネームカード
ネームカード
ネームカード
ネームカード

○信用貯金をふやすために、自分にはどんなことができるかな？

★自分の課題にあったものを考えよう！

名前	教室のロッカーや机の中の整理整頓を心がける
名前	休み時間と授業時間のきりかえをしっかりとる
名前	ルールを守る 人を傷つけるような言葉はやめる
名前	人の話をよく聞く ウソをつかない
名前	相手にやさしくせつする。



8. 座席配置図

